

# 特 殊 報

長崎県病虫害防除所長

## 平成28年度病虫害発生予察 特殊報第1号

- 1 病虫害名 キウイフルーツかいよう病 (Psa 3 系統)
- 2 病原菌名 キウイフルーツかいよう病菌  
*Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae* biovar3 ; Psa 3
- 3 発生作物 キウイフルーツ
- 4 発生場所 長崎県佐世保市
- 5 発生確認の経過及び発生状況
  - (1) 平成28年4月に佐世保市のキウイフルーツ園(品種:レインボーレッド)において、葉に黄色のかさ(ハロー)をともなった褐色斑点、樹幹から樹液の漏出、新梢のしおれ症状を確認した。
  - (2) 葉の病斑から分離した病原菌を農林水産省門司植物防疫所に検定を依頼した結果、県内未発生のキウイフルーツかいよう病(Psa 3 系統)であることが確認された。
  - (3) 本病は国内では平成26年5月に愛媛県で初めて確認され、これまでに13都県から報告されている。また、九州では平成26年に福岡県、佐賀県から報告されている。
- 6 病徴
  - (1) 本病は枝幹、新梢、葉、花蕾に発生する。
  - (2) 感染樹では、枝幹から白濁した菌液もしくは赤色の樹液の漏出が確認される(写真1)。
  - (3) 伸長中の新梢が感染すると水浸状の病斑を生じ、次第に黒色となり、亀裂を生じて萎凋枯死する(写真2)。
  - (4) 発病葉では不整形の褐色斑点が形成され、斑点の周囲に黄色のかさ(ハロー)を生じることが多い(写真3、4)。
  - (5) 花蕾ではがくや花弁が褐変し、腐敗による落花が生じるが、花腐細菌病と症状が類似していることから、外観での判断は難しい。
- 7 病原菌の性質及び伝染方法
  - (1) 病原菌は細菌の一種で、感染樹の葉や枝などから浸出した細菌液が、風雨による飛散や接触により、葉や枝の傷口、気孔などに付着することにより感染する。また、接木や作業器具等によって伝染する。
  - (2) 病原菌の生育に好適な温度は10~20 程度であり、32 以上の高温で多くの菌が死滅する。
  - (3) 既発生国ではPsa 3 系統は病原性が強いとされ、緑色果実品種より黄色果実品種での被害が大きいとされている。

## 8．宿主植物

キウイフルーツなどマタタビ属（マタタビ科）の植物

## 9 防除対策

### 【本病の発生が認められた園地】

- (1) 感染した枝や葉は伝染源となるため、発病程度に応じて、薬剤防除や枝の切り戻しを行う。主幹部からの菌液の漏出など、発病程度が重い場合は主幹の伐採を行う。切除および伐採を行った枝や葉および幹は二次伝染源となるので、発生園場内で土中埋設、焼却など適切な処分を行う。
- (2) 剪定後は、必ず切り口に癒合促進剤（トップジンMペースト）を塗布する。
- (3) 適期に薬剤散布を行う（表1）。特に病原菌が増殖しやすく、樹体内の菌密度が高い状態となる発芽期から果実肥大期までおよび収穫後から発芽前までに実施する。
- (4) 傷口から感染するため、風当たりの強い園地では防風ネット等により、防風対策を行う。
- (5) 発病樹の伐採や剪定に用いた器具は、必ず樹ごとに次亜塩素酸ナトリウム水溶液（200ppm以上）または70%アルコール液を用いて消毒する。

### 【無発生園地】

- (1) 感染のおそれがない清浄な苗・穂木・花粉を使用する。
- (2) 剪定作業に用いるハサミ等の器具、靴等の持込みの際には、消毒するよう努める。
- (3) 所有・管理する園地の関係者以外の者が必要以上に園地に立ち入らないようにすること。



写真1 樹幹から樹液の漏出



写真2 新梢の萎れ



写真3 葉の褐色斑点（初期）



写真4 葉の褐色斑点（後期）

表1 キウイフルーツかいよう病に登録がある農薬(平成28年5月24日現在)

使用方法	一般名	商品名	希釈倍	使用時期	本剤の使用回数
散布	銅水和剤	ICボルドー66D	25～50倍	収穫後～発芽前	-
		コサイド3000	2000倍	収穫後～果実肥大期	
		コサイドボルドー	500倍	収穫後～発芽前	
	ストレプトマイシン水和剤	アグレプト水和剤	1000倍	収穫90日前まで	4回以内
		マイシン20水和剤	1000倍	収穫90日前まで	
	銅・ストレプトマイシン水和剤	銅ストマイ水和剤	600～800倍	休眠期～蕾出現前	
	カスガマイシン液剤	カスミン液剤	400倍	収穫90日前まで	
	カスガマイシン・銅水和剤	カスミンボルドー	1000倍	発芽後叢生期 (新梢長約10cm)まで	
			500倍	休眠期	
		カップーシン水和剤	1000倍	発芽後叢生期 (新梢長約10cm)まで	
500倍			休眠期		
オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	アグリマイシン-100	1000倍	落花期まで	3回以内	
樹幹注入	注1 ストレプトマイシン液剤	アグレプト液剤	1000倍	収穫後～落葉前まで	
	注2 カスガマイシン液剤	カスミン液剤	200倍	収穫後～落葉前まで	
塗布	チオファネートメチル剤	トップジンMペースト	原液	剪定整枝時、病患部 削り取り直後、及び病 枝切除後	3回以内

注1 ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数は4回以内(うち樹幹注入は1回以内)

注2 カスガマイシンを含む農薬の総使用回数は4回以内(うち樹幹注入は1回以内)

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

